

現四日市市教育大綱の振り返りについて

四日市市教育委員会

大綱に掲げる5つの理念（方針）

1. 確かな学力を修得し、未来を創る力の養成

- ・知識や技能、思考力、判断力、表現力
- ・言語能力、問題解決能力、情報活用能力
- ・発達段階に応じたICT活用、対面指導とオンライン教育、授業と家庭のシームレスな学習
- ・地域社会との連携、誰一人取り残されことなく、個別最適化された学び

2. 生涯にわたり健康を保持し、運動に親しむ態度の育成

- ・自らの健康を管理、豊かなスポーツライフの実現
- ・命を大切にする教育、性に対する正しい理解、判断
- ・体力・運動能力の向上、健康の保持、食育の充実

3. 豊かな人間性を育み、夢と志の実現に向け学び続ける態度の涵養

- ・キャリア教育 ・メディア・リテラシー、人権教育の推進、道徳教育の充実
- ・学びの一体化 ・主体的、協働的に学ぶ意欲や態度の涵養

4. 家庭・地域等外部との連携・協働による学校マネジメントの充実

- ・働き方改革 ・チーム学校づくり
- ・行政機関と連携した環境整備
- ・家庭・地域と協働した教育

5. 四日市ならではの教育の推進

- ・四日市の歴史、文化、自然 ・地域の産業と連携した教育
- ・公害対策、環境保全を両立、持続可能な社会づくり
- ・四日市を誇りに思う心の育成

学校教育ビジョンに掲げる5つの基本目標と3つの施策の重点

基本目標1 確かな学力の定着

- 主体的・対話的で深い学びの実現
- ICT活用による情報活用能力の育成
- 言語活動の充実による読解力・表現力の育成
- 筋道立てて説明できる論理的思考力の育成
- 英語コミュニケーション能力の育成
- 就学前教育の充実

基本目標2 こころとからだの健全な育成

- 人権教育の充実
- 読書活動の充実
- 健康教育の推進
- 道徳教育の充実
- 体力・運動能力の向上
- 食育の推進

基本目標3 よりよい未来社会を創造する力の育成

- キャリア教育の充実
- 四日市の資源を生かした教育の推進
- 持続可能な社会を目指す教育の充実
- 防災・安全教育の推進

基本目標4 全ての子どもたちの能力を伸ばす教育の実現

- 学びを支える指導体制の充実
- 特別支援教育の充実
- 日本語指導が必要な子どもへの指導の充実
- 不登校児童生徒への支援
- 学びのセーフティネットの構築

基本目標5 学校教育力の向上

- 学校経営の充実
- 学びの一体化の推進
- 学びを支える教育施設等の整備
- 学校業務の適正化
- 地域と協働した学校づくり
- 生徒指導の充実
- 教職員の資質・能力の向上

重点3 学校の組織力向上（公立学校における働き方改革）
重点2 「ICT」の効果的な活用（四日市市e-Learningスクール構想）
重点1 新教育プログラムの着実な実践

基本理念
夢と志を持ち、未来を創るよっかいちの子ども

1. 確かな学力を修得し、未来を創る力の養成

- ◆ これからの社会は、グローバル化の一層の進展とともに、技術革新が急速に進み、超スマート社会が到来することが予想されています。新しい社会を見据え、子どもたちが、これからの社会を切り拓いていくためには、知識や技能の定着とともに、思考力、判断力、表現力をバランスよく育成することが大切です。
- ◆ また、本市が重点的に取り組んできた「社会人になっても通用する問題解決能力」の育成を今後も大切にしながら、併せて、「学習や生活の基盤となる言語能力」、「情報社会に主体的に参画する情報活用能力」といった汎用的な資質・能力の育成も図る必要があります。
- ◆ そのため、学校においてはＩＣＴを効果的に活用して、個に応じた指導や対話的な学び合いを進めるとともに、家庭や地域社会と連携したオンライン教育を充実させることで、学びの質を向上させます。
- ◆ これらの取り組みによって、全ての子どもたちの可能性を引き出す個別最適な学びと、協働的な学びを実現させるとともに、それぞれの学びを往還させ、生かしあうことで深い学びとなることを目指します。

振り返り（主な取り組み・成果・課題など）

主に関係：学校教育ビジョン基本目標 1 確かな学力の定着

○主体的・対話的で深い学びの実現 ○ICT活用による情報活用能力の育成 ○言語活動の充実による読解力・表現力の育成
○筋道立てて説明できる論理的思考力の育成 ○英語コミュニケーション能力の育成 ○就学前教育の充実

- ◆ 子どもたちがなかまとともに、能動的に学び続けることができるよう、また、言語能力、問題解決能力、情報活用能力等必要な資質・能力を身につけられるよう、「四日市市新教育プログラム」を策定して推進してきた。就学前から中学校卒業時までの各段階における学びを明確に位置付け、教職員が意識しながら指導にあたることにより、教育効果を高める学びの一体化を実現してきた。
- ◆ 推進施策として各種授業づくりのガイドブックやカリキュラムの改訂、研修会の実施、外部有識者の知見活用等を通じて、各学校で学習者主体の授業づくりに向けて授業改善を進めた。「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」、「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」と肯定的に回答した児童生徒の割合は増加傾向にある。引き続き、学習の基盤となる非認知能力を含めて、確かな学力の育成に向けてさらなる授業改善の必要がある。
- ◆ 四日市市GIGAスクール構想のもと、子どもたちの学習におけるICT環境の整備は着実に進み、学校での学びにタブレット端末を使用している児童生徒数は増えた一方で、ＩＣＴ及びそれらから得られる教育データを活用することによって個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実による深い学びにつなげられるよう、さらなる授業改善が必要である。

参考指標

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、現大綱がスタートした令和３年度からではなく、コロナ禍前の令和元年度まで遡って記載している。

指 標		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
基本 目 標 1	「全国学力・学習状況調査」における各教科の平均正答率の平均値（全国平均値を１００としたときの全科目の市平均値）	小 6 98.9 中 3 102.5	—	小 6 99.7 中 3 101.2	小 6 100.8 中 3 100.5	小 6 98.7 中 3 102.9	小 6 98.5 中 3 100.3	学調
	「全国学力・学習状況調査」における読解力に関連する問題の平均値（全国平均値を１００としたときの全科目の市平均値）	小学校 100.7 中学校 101.1	—	小学校 91.4 中学校 102	小学校 98.6 中学校 100.1	小学校 98.9 中学校 104.5	小学校 101 中学校 95	学調
	「全国学力・学習状況調査」における思考力に関連する問題の平均値（全国平均値を１００としたときの全科目の市平均値）	小学校 95.3 中学校 104.3	—	小学校 100.2 中学校 107	小学校 99 中学校 103.6	小学校 85.7 中学校 108.6	小学校 96 中学校 107	学調
	「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ」と肯定的に回答した児童生徒の割合	小学校 77.9% 中学校 80.5%	—	小学校 80.8% 中学校 83.2%	小学校 77.6% 中学校 83.6%	小学校 79.3% 中学校 83.4%	小学校 82.6% 中学校 84.4%	児童生徒 質問紙
	「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表した」と肯定的に回答した児童生徒の割合	小学校 61.1% 中学校 59.0%	—	小学校 64.4% 中学校 63.7%	小学校 63.9% 中学校 61.8%	小学校 63.3% 中学校 62.3%	小学校 65.4% 中学校 63.9%	児童生徒 質問紙

2. 生涯にわたり健康を保持し、運動に親しむ態度の育成

- ◆ 全ての子どもが、運動やスポーツをすることの楽しさや喜びを味わい、生涯にわたって自らの健康を適切に管理・改善し、豊かなスポーツライフを実現するためには、運動に親しむ資質・能力を身に付けることが大切です。
- ◆ 健やかな体を育むことは、健康の維持といった身体面のほか、意欲や気力といった精神面の充実にも関わり、「生きる力」「共に生きる力」の基盤となります。
- ◆ そのため、子どもが意欲的に取り組む体育活動を図り、体力・運動能力の向上とともに、運動する楽しさに気付かせることが必要です。
- ◆ また、子どもたちが命の大切さを学んだり、性に関する正しい知識と判断力を身に付けることは、将来、心身ともに健やかで、幸せに過ごすための基礎を養うことにもなります。
- ◆ 今まで以上に、発達段階に応じた体力・運動能力の向上、健康教育や食育の充実を図ることを通して、子どもたちの豊かな心とたくましい体を育みます。

振り返り（主な取り組み・成果・課題など）

主に関係：学校教育ビジョン基本目標2　こころとからだの健全な育成

○体力・運動能力の向上　○健康教育の推進　○食育の推進

- ◆ 体力・運動能力の向上について、運動好きの子どもを育てるための授業改善や主体的に運動に親しむことができる環境づくりに努めてきた。指導資料の作成や理学療法士等専門的知見を取り入れた研修会の実施、子どもたちの体力状況に合わせた授業改善の方法の調査研究等に取り組むことができた。今後は、研修会を小中合同で開催するなど、どの子どもも運動の特性に触れながら達成感や成就感が感じられる授業を系統的に行っていくよう指導力向上を図っていくとともに、運動に親しむ環境づくりのひとつとして家庭への働きかけも強化し、運動の日常化を促進していく。
- ◆ 健康教育の推進を図るため、関係機関と連携した取り組みの充実や健康課題に応じた取り組みの充実に努めてきた。各校が学校三師と連携して学校保健委員会を開催することなどを通じて自校の健康課題に適切に対応することにつなげている。また、産婦人科医や助産師の専門的知見を活かした生命及び性に関する出前講座を実施できた。引き続き、子どもたち自らが健康管理・改善していくための力を育むため、取り組みを進めていく。
- ◆ 食育の推進を図るため、学校給食の充実や食に関する指導及び指導内容の充実に努めてきた。令和5年4月には四日市市学校給食センターを設置し、小中学校とともに、給食に特色ある献立を取り入れ、内容の充実を図るとともに、給食を教材として活用した食育の取り組みを推進できた。食育に関心があると回答した児童生徒の割合は増加傾向にある。引き続き、子どもが自らの食に関心を持ち、健全な食生活を送れるよう、取り組みを進めていく。

参考指標

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、現大綱がスタートした令和３年度からではなく、コロナ禍前の令和元年度まで遡って記載している。

指 標		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
基本 目 標 2	「運動やスポーツをすることが好きである」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小５男 71.3%	—	小５男 66.2%	小５男 69.3%	小５男 72.2%	小５男 74.3%	体力調査
		小５女 52.0%		小５女 49.6%	小５女 50.8%	小５女 51.6%	小５女 54.6%	
		中２男 63.5%		中２男 62.3%	中２男 63.7%	中２男 63.2%	中２男 64.0%	
		中２女 44.3%		中２女 43.7%	中２女 44.3%	中２女 44.9%	中２女 41.5%	
	「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」における体力合計点	小５男 54.06	—	小５男 52.1	小５男 52.23	小５男 53.37	小５男 52.53	体力調査
		小５女 55.66		小５女 54.09	小５女 53.83	小５女 54.34	小５女 53.02	
		中２男 40.99		中２男 42.83	中２男 41.22	中２男 41.46	中２男 42.44	
	食育に「関心がある」と回答した子どもたちの割合	—	—	—	小学校 81.1%	小学校 82.8%	小学校 81.5%	独自
					中学校 66.7%	中学校 68.6%	中学校 70.2%	

3. 豊かな人間性を育み、夢と志の実現に向け学び続ける態度の涵養

- ◆ 急激に変化する社会の中で、子どもたちが夢や志を持ち、未来を切り拓いて生きていくためには、その変化を前向きに受け止め、未知なことから問題を見出し、試行錯誤しながらも解決していこうとする意欲や力を生涯にわたって持ち続けることが重要です。
- ◆ 学ぶ意欲を持ち、持続するには、「何のために学ぶのか」「学んだことは社会とどうつながるのか」ということを考え実感することが大切です。そのために社会人から話を聞くことや、様々な体験活動を行うなど、他者と関わりながら学ぶキャリア教育の充実を図ります。
- ◆ また、メディア・リテラシー養成の取り組みを含む人権教育や、考え・議論する道德教育の推進を図り、自己肯定感、粘り強く最後までやり遂げようとする強い気持ち、他者と協調し思いやる心、多様性を尊重する姿勢など、よりよく生きるための基盤となる豊かな人間性を育みます。
- ◆ これらを基盤としたうえで、本市の強みを生かした自然、社会、文化等、体験活動や、本市の進める連携型小中一貫教育の充実によって、子どもたちに夢と志の実現に向け、主体的・協働的に学び続ける態度の涵養を図り、学校での学びを自分自身の人生の充実、幸せや将来の社会貢献につなげます。

振り返り（主な取り組み・成果・課題など）

主に関係：学校教育ビジョン基本目標 3 よりよい未来社会を創造する力の育成 ○キャリア教育の充実
学校教育ビジョン基本目標 2 こころとからだの健全な育成 ○人権教育の充実 ○道德教育の充実

- ◆ キャリア教育の充実に向けて、発達段階に応じた組織的・系統的なキャリア教育の推進や一人一人のキャリア形成を目指した教育活動の充実に努めてきた。キャリア・パスポートの効果的な活用方法、取り組みについて研修会等を通じて指導、助言をしてきた。また、職場体験学習やプレ社会人セミナー等の地域や企業を活用した体験活動を充実させることができた。「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合は増加傾向にある。引き続き、学ぶことと社会とのつながりを意識し、他者と協働しながら、社会的・職業的自立に向けて必要な基礎的・汎用的能力を育んでいく。
- ◆ 人権教育の充実に向けて、子どもが主体となる人権学習の充実、教職員人権教育研修の充実、地域や家庭とともに取り組む人権教育の推進に努めてきた。メディア・リテラシーと人権の出前授業をすべての学校で実施したことで、身の回りの人権問題について考え、深めるきっかけづくりができた。引き続き、人権教育を通じてよりよく生きるための基盤となる人間性を育成していく。
- ◆ 道德教育の充実に向けて、「考え、議論する道德」の実現に向けた授業づくり、今日的な課題に対する心を育てる取り組み、家庭と地域と一体となった道德教育の推進に努めてきた。「道德の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合は増加している。引き続き、子どもたちが他者との関わりを通じ、自分自身の考えを深めていく「考え、議論する道德」の授業を中心に、あらゆる教育活動において道德教育を推進していく。

参考指標

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、現大綱がスタートした令和３年度からではなく、コロナ禍前の令和元年度まで遡って記載している。

	指 標	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
基本 目 標 3	「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 82.0%	—	小学校 79.7%	小学校 77.3%	小学校 80.1%	小学校 81.9%	児童生徒 質問紙
		中学校 70.0%		中学校 72.2%	中学校 70.5%	中学校 70.9%	中学校 71.3%	
基本 目 標 2	いじめや差別は絶対にいけないと思う子どもの割合	93%	—	93%	94%	95%	94%	独自
	「自分には、よいところがある」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 81.2%	—	小学校 79.2%	小学校 78.1%	小学校 82.5%	小学校 83.0%	児童生徒 質問紙
		中学校 77.5%		中学校 79.6%	中学校 81.0%	中学校 82.8%	中学校 86.0%	
	「自分と違う意見について考えるのは楽しい」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	—	—	小学校 72.1%	小学校 73.4%	小学校 76.8%	小学校 75.1%	児童生徒 質問紙
	「道徳の授業で、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 79.8%	—	小学校 83.3%	小学校 77.4%	小学校 82.1%	小学校 88.1%	児童生徒 質問紙
		中学校 81.3%		中学校 88.4%	中学校 89.1%	中学校 90.5%	中学校 93.6%	

4. 家庭・地域等外部との連携・協働による学校マネジメントの充実

- ◆ 人々のつながりが希薄化するなど、子育てについての悩みや不安があっても、身近に相談できる相手がいないといった課題が浮き彫りとなっています。
- ◆ 厳しい経済状況にある家庭や教育的に不利な環境にいる子ども、特別な支援を要する子ども、日本語指導が必要な子どもなど、個別的教育課題への対応や子どもたちに学習機会の均等を図るためには、福祉など様々な行政機関と連携した環境整備が不可欠です。
- ◆ このような時代や社会の変化に対応するためには、家庭、地域社会、学校・行政の連携・協働がこれまで以上に必要です。
- ◆ 地域全体で未来を担う子どもたちの成長を支えていくために、令和3年に全校実施となるコミュニティスクール等を活用しつつ、学校・家庭・地域の連携・協働体制を確立し、「地域とともにある学校づくり」を推進していきます。
- ◆ さらに、教員が子どもと向き合う時間をより確保するために学校において担うべき業務を明確化するとともに、教員とは異なる知見を持つ外部人材・福祉や法など様々な分野の多様な専門スタッフが学校運営に参画する「チーム学校」の取り組みを進め、学校の組織的な対応力を向上させます。

振り返り（主な取り組み・成果・課題など）

主に関係：学校教育ビジョン基本目標4 全ての子どもの能力を伸ばす教育の実現

○学びを支える指導体制の充実 ○特別支援教育の充実 ○日本語指導が必要な子どもへの指導の充実

○不登校児童生徒への支援 ○学びのセーフティネットの構築

学校教育ビジョン基本目標5 学校教育力の向上

○学校経営の充実 ○学校業務の適正化 ○地域と協働した学校づくり

- ◆ いじめや不登校、経済的に不利な状況など、子どもや家庭の抱える課題が多様化・複雑化するなかで、各教育課題に応じた相談指導体制を充実させており、行政だけではなく様々な関係機関との連携強化を図ってきている。特別支援教育においては、通級指導教室や小学校のサポートルームの拡充等に取り組んだ。不登校児童生徒への支援においては、登校サポートセンターを核として不登校対応の充実を行いながら、小・中学校における校内ふれあい教室の拡充、フリースクール等民間施設・団体との連携や保護者支援等にも取り組んできた。引き続き、誰一人取り残さない学びの保障のため、関係機関とも連携しながら取り組みを進めていく。
- ◆ 地域と協働した学校づくりについて、令和3年度にはすべての学校が四日市版コミュニティスクールの指定を受けており、保護者・地域住民の学校運営への参画の意識の醸成や、協働して教育活動に取り組む仕組みを構築し、学校、地域、家庭が一体となった学校運営の改善や教育活動の充実を進めてきた。引き続き、コミュニティスクールを核として子どもたちが主体的に地域活動や体験活動に参画できたり、地域のなかで新たな交流やつながりが創出できることなどを通じて、子どもたちの健全な育ちにつなげていく。また、四日市市全体で取り組む子どもの居場所づくりについては、放課後の学習支援や体験活動などをコミュニティスクールの運営協議会委員と連携して進めていく。

参考指標

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、現大綱がスタートした令和３年度からではなく、コロナ禍前の令和元年度まで遡って記載している。

	指 標	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
基本 目 標 4	相談支援ファイルを作成している児童生徒の割合	7.0%	7.7%	8.2%	8.9%	9.0%	9.6%	独自
	日本語指導を必要とする外国人生徒の進学率	87.0%	92.6%	75.6%	87.2%	85.7%	95.7%	独自
	中学3年生不登校生徒の卒業後進路決定率	—	—	97.4%	91.0%	92.7%	97.1%	文科省調査
	中学校卒業後の高等学校等進学率	98.9%	98.9%	98.8%	98.8%	98.8%	98.9%	独自
基本 目 標 5	超過勤務年720時間以上の教職員数の割合	小学校 10.8%	小学校 10.4%	小学校 4.2%	小学校 3.3%	小学校 2.6%	小学校 2.1%	独自
		中学校 33.3%	中学校 10.1%	中学校 14.4%	中学校 15.2%	中学校 19.2%	中学校 14.8%	
	「コミュニティ・スクールや地域学校共同活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった」と肯定的な回答をした学校の割合	—	—	—	—	小学校 97.3% 中学校 100.0%	小学校 100.0% 中学校 100.0%	学校質問紙

5. 四日市ならではの教育の推進

- ◆ 四日市市は、伊勢湾と鈴鹿山脈に囲まれた自然豊かな地域であり、古くから人とモノが交流するまちとしての歴史を背景に、豊かな生活基盤を育んできました。
- ◆ 特色ある農業や地域に根付いた地場産業も盛んであるとともに、豊かな歴史を背景に様々な文化が育まれ、現在も数多くの文化財や伝統芸能などが継承されている文化の息づくまちでもあります。
- ◆ 一方、本市は、公害を教訓にし、公害対策のモデル都市として産業の発展と環境保全を両立させてきたまちでもあります。
- ◆ 現在では、環境技術を蓄積してきた臨海部の石油化学産業や、世界最先端の半導体製造工場をはじめとする多様なものづくり産業が集積し、日本有数の国際貿易港である四日市港と相まって発展を続けていることが、本市の活力の源になっています。
- ◆ このような四日市ならではの歴史・文化・自然を活用し、地域に点在する文化財等地域教材を活用した学習や、地域で働き地域を支える人々の協力を得て展開する学習を充実させます。さらに、高度なものづくり産業と連携した教育、持続可能な社会づくりに主体的に取り組む環境教育を推進します。
- ◆ これら豊かな地域資源を教育に生かす取り組みを通じて、社会とつながる協働的な学びを実現するとともに、ふるさとに対する誇りと愛着を育み、社会の一翼を担う「よっかいちの子ども」の育成に努めます。

振り返り（主な取り組み・成果・課題など）

主に関係：学校教育ビジョン基本目標3 よりよい未来社会を創造する力の育成

○四日市の資源を生かした教育の推進 ○持続可能な社会を目指す教育の充実

- ◆ 四日市の資源を生かした教育の推進について、地域の自然・歴史・文化等を活用した教育の充実、博物館が持つ地域資源を活用した郷土教育の充実、プラネタリウム施設を生かした理科教育への関心・意欲の向上等に努めてきた。「のびゆく四日市」のデジタル化や地域資源に触れる学習プログラムを提供すること、また、企業等と連携した研修会や出前授業を推進することで、子どもたちが地域資源をより詳細に理解し、魅力を実感できたり、専門的な知識や情報に触れる機会が創出できた。引き続き、ふるさと四日市に誇りと愛着を持ち、グローバル化する社会の一翼を担う人材を育成していく。
- ◆ 持続可能な社会を目指す教育の充実について、SDGsの理念を踏まえたESDの推進、四日市の歴史を正しく学び、後世に伝える教育の推進に努めてきた。小学5年生と中学3年生全員が「四日市公害と環境未来館」の見学を軸に、四日市公害や環境問題についての学習が行えるよう取り組んだり、地域課題の解決に向けてSDGsの視点を取り入れたESDカレンダーを全校で作成するなどして教科横断的な取り組みとして進めることができた。「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と肯定的な回答をした児童生徒の割合は増加している。引き続き、身近な課題を地球規模の課題と結び付けて自分事として考え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を育成していく。

参考指標

※新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、現大綱がスタートした令和３年度からではなく、コロナ禍前の令和元年度まで遡って記載している。

指 標		R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6	
基本 目 標 3	「今住んでいる地域の行事に参加している」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 75.6% 中学校 57.9%	—	小学校 63.4% 中学校 46.7%	小学校 56.1% 中学校 45.1%	小学校 61.1% 中学校 42.9%	—	児童生徒 質問紙
	「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	小学校 55.7% 中学校 42.0%	—	小学校 51.0% 中学校 44.3%	小学校 50.7% 中学校 43.3%	—	—	児童生徒 質問紙
	「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	—	—	—	—	小学校 79.1% 中学校 70.2%	小学校 85.9% 中学校 79.8%	児童生徒 質問紙
	「SDG s の達成に向けて自分にできることをやろうとしている」と肯定的な回答をした児童生徒の割合	—	—	—	小学校 78.6% 中学校 74.9%	小学校 78.5% 中学校 74.7%	小学校 81.3% 中学校 80.3%	独自